

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700163
法人名	医療法人 徳寿会
事業所名	グループホーム のぞみ
所在地	徳島県吉野川市鴨島町内原432番地 (電話) 0883-24-2200

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年7月5日

【情報提供票より】(平成 20年 6月 19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 3月 27日
ユニット数	4 ユニット 利用定員数計 36 人
職員数	23 人 常勤 23人、非常勤 0人、常勤換算 1ユニット 7人、2ユニット 7人、3ユニット 6人、4ユニット 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	共益費3,000円、水道光熱費9,450円、その他実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	— 円
	または1日当たり		— 円	

(4) 利用者の概要(6月 19日現在)

利用者人数	35 名	男性	8 名	女性	27 名
要介護1	5 名	要介護2	13 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	61 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鴨島病院・石田歯科医院
---------	-------------

徳島県 グループホームのぞみ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道192号線に面した吉野川市の中心部に位置し、近くにはスーパーや量販店等があり、利用者の日々の買い物や外出に活用している。同一法人が運営する施設の2階にグループホームはあり、階段を上った先にある玄関に通じるベランダには、利用者と職員が手入れをしている四季の花々が咲いている。玄関内部には七夕の飾り付けがされ、季節を感じとれた。職員はやさしく、さりげない気配りをしながら支援している姿がみられ、利用者の表情には安心した、おだやかな落ち着きと安らぎがみられた。同一敷地内に併設病院があり、緊急時や夜間の対応が得られている。ユニット数は4つあり行事を別々に行うなど、それぞれの特色をケアや運営面に活かしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目はほぼ改善されている。「鍵をかけないケアの実践」については改善に至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに管理者と職員が共に自己評価に取り組み、外部評価の結果をケアの指標としてサービスの質の向上につなげるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1回(H19年度は4回)開催され、利用者、家族、民生委員、自治会代表、市町村職員、地域包括支援センター職員、管理者、職員で構成されている。会議内容は活動状況等を報告して事業所への理解を深めてもらうとともに、災害時等の協力もお願いしている。話し合われた内容は申し送りやミーティング等で伝えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会や面会の機会にその都度近況報告し、家族の意思や意見を確認して日々の支援に活かしている。面会に来られた時には職員から声をかけたり、玄関に意見箱を置き受付担当者の名前を掲示するなど気軽に話しやすい雰囲気づくりがされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所にある神社の清掃活動(月2回)や祭事などに参加している。地域の小学校に招かれて「ふるさと教員」として昔ながらの遊びや料理、年中行事などを教え、地域の子どもたちとの交流も深めている。地域密着型サービスとしての機能を十分に発揮し、グループホームへの理解へとつながるよう積極的に取り組んでいる。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「話 和 輪」をモットーに全職員が意識し、地域密着型サービスとして独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット毎に提示して申し送り時やミーティング等で理念や方針、目標を具体的に話し合い共有し、ケアへの実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所にある神社の清掃活動(月2回)や祭事などに参加している。地域の小学校に招かれて「ふるさと教員」として昔ながらの遊びや料理、年中行事などを教え、地域の子もたちとの交流も深めている。地域密着型サービスとしての機能を十分に発揮し、グループホームへの理解へとつながるよう積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員ともに評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は全職員に伝え、話し合いの場をもち改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、民生委員、自治会、市町村職員、地域包括支援センター職員、管理者、職員で構成されている。会議内容は活動状況等を報告して事業所への理解を深めてもらうとともに、災害時等の協力もお願いしている。話し合われた内容は申し送りやミーティング等で伝えているが、欠席している職員等への伝達が十分行われていない。開催頻度は3ヶ月に1回(H19年度は4回)である。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回、開催されたい。また全職員が会議内容を共有し、日々のサービスの向上に活かされるような仕組みづくりが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	吉野川市が主催する高齢者虐待防止ネットワーク委員会のメンバーとなり、ネットワークづくりや勉強会への参加、意見交換を行うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手紙や「のぞみ便り」を定期的に発刊し、家族に送付している。連絡票、金銭管理票を作成して家族に報告した内容を記録している。金銭管理については家族の来訪時に確認してもらい、サインをもらっている。職員の異動等も家族会や便りで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会の機会にその都度近況報告し、家族の意思や意見を確認して日々の支援に活かしている。面会に来られた時には声をかけたり、玄関に意見箱を置き受付担当者の名前を掲示するなど気軽に話しやすい雰囲気づくりがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動はほとんどない。異動や離職がやむを得ずある場合は、時期や引き継ぎの時間を十分に設け、利用者へのリスクを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、法人内外の研修に積極的に参加している。研修内容は参加者が伝達講習を行い、全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや市町村が主催する各委員会に参加して情報交換の場を広げたり、事例検討会に参加したりして、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来てもらったり、家族とよく話合った上で納得をされてから利用を開始できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや四季折々の行事や習わしなど、人生の先輩である利用者から職員が教わる場面があり、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情等から意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合には1対1でゆっくりとコミュニケーションをとり、思いをくみ取っている。また家族等からの情報や過去の生活歴、暮らし方などを参考にしながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見などが反映された介護計画になっている。介護計画作成時は家族に開示して同意のサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて定期的に見直しされている。利用者の状態変化時や要望等に応じた対応は随時行われているが、記録に反映されていない。	○	利用者の状態変化時や要望に即したプランを明示されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じて通院や外出など柔軟に対応している。また医療連携体制を活かし、外泊する利用者に家庭での健康上のアドバイス等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の要望に応じたかかりつけ医への受診を支援している。受診の際は記録類等を医療機関と共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合や終末期のあり方に関する指針を作成している。利用者の状態に変化があった場合は、家族や主治医など関係者間で話し合いを重ね、全員で方針を共有している。		
、					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に秘密保持の規定を明記して個人情報保護を周知徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いを考慮して風呂の時間帯を調節したり、散歩や行事への参加を決めるなど、利用者主体の支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設病院で調理されている。盛り付けや配膳、後片付けをともに行き、職員と利用者が同じテーブルを囲みながら楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望にそって入れるよう支援している。また入浴を楽しむことができるよう季節に応じた入浴剤等を使用し、香りを楽しんでもらうなど工夫している。身体機能の低下した人には職員も一緒に入り、安心感をもたらす支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ベランダの花の手入れや漬物づくり、洗濯物たたみ、繕いものそれぞれの得意分野で力を発揮してもらえよう、場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じて、園芸活動や移動販売のパン屋への買い物にでかけたりして心身の活性に繋がるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動から外出したい様子を察知すればすぐに対応して職員が付き添うなど、閉そく感なく自由な暮しができるように配慮している。しかし、2階にある事業所の玄関前には急な階段があり、安全面に配慮して施錠している。	○	安全面への配慮を行いながら、鍵をかけないケアの実施に向けた検討を継続的に実施されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設病院の協力にて年2回の火災訓練などが行われている。1回はグループホームから出火の想定で行われている。また運営推進会議の参加者を通じて地域の人々の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表に記録し、関係者間で情報を共有している。利用者の嗜好や状態に応じて、食事形態などを工夫している。定期的に併設病院の医師、管理栄養士に専門的なアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファやテーブルなどを設置し、歩行の妨げにならないように十分な広さを設けている。壁に絵画を飾ったり、季節の花を活けたりと居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や小物を持ち込み、一人ひとりに応じた居心地の良い居室がつけられている。		